ハンガリーの舞踊研究

大澤　慶子

〈研究の目的・方法〉

20世紀半ば頃より，盛んになったとみられるハンガリーにおける舞踊研究の歩みを，刊行された著作，文化運動などからたどり概観してみる。これは単に，ハンガリー一国の例であるにとどまらず，舞踊一般の研究方法をさぐる何らかの手がかりを与えてくれ，また，伝統文化の継承という問題についても我々が学ぶべき所があるのではないかと考えるからである。

さらに，ハンガリーの現代社会において，舞踊が如何なる形で人々とかかわりあっているかという側面も考え合わせてみたいと思う。

従って，刊行された文献に可能な限りあたり，さらに，筆者自身の実態調査，体験等（1979〜80在ハンガリー）もあわせて論をすすめることにする。

〈結果・考察〉（表1他学会発表資料参照）

文献上にはじめて舞踊に関する研究がみられるのは，音楽史や言語（学），民俗学の分野の中であり，およそ20世紀に入ってからのことである。たとえば，民俗学Ethnographia（1890年創刊）の1905〜6年には，ハイドウク（＝牧夫）舞踊の歴史的比較研究に関しての議論がなされたり，Reső Ensel Sándor, Orban Balázsらの民俗学的研究がみられる。[1] これはそれまでのドイツの影響を取り去って，自国のマジャル人自身の文化を追求しようとしていた20世紀初頭のハンガリーの時代風潮[2]の反映ともみられよう。その後1924年になってRéthei Prikkel Mariánの形式，音楽，言語といった多方面からのアプローチでその時期の研究成果をまとめた，初のハンガリー舞踊の包括的な研究書が刊行される。また1905年に田舎での民謡収集活動を始めた，コダーイ・ゾルターンKodály Zoltán（1882〜1967），バルトーク・ベーラBartók Béla（1881〜1945）らの活動は，音楽と同様に舞踊の研究にも大きな影響を与え，20年代後半から40年代へかけての舞踊の収集活動を促した。その成果が37年の"ハンガリーの民俗学Ⅳ"の舞踊の項の，即興性の中にみられる規則性，音楽と舞踊の関連などの叙述である（Lajta, Gyönyey）。また，47年のMolnárの"ハンガリーの伝統的舞踊"などもその成果をまとめたものである。これと同年のLugossyらの"ハンガリーの民族舞踊"などの中には，Labanによる記譜法がみられる。その他表1にみられるごとく，37年にViski Károlyの"ハンガリーの舞踊"（英訳版，ロンドン），39年にはElizabeth C, Rearickの"ハンガリー（人）の舞踊"（ニューヨーク），50年には，George Budayの"ハンガリーの舞踊"（ロンドン）と英語版のものも刊行されている。

1945年の革命以降[3]，50年代は，より専門化され，各ジャンル毎，地域別の丹念なフィールドワークの成果がまとめられた時期といえ，60年代70年代へと受け継がれ，現在その体系化がなされているといえよう。56年からは，雑誌"舞踊文化ニュース"が（〜75年まで），76年からは"舞踊文化"（月刊）が発行され，現在まで，舞踊一般を取り扱っている唯一の雑誌となっている。また，専門的な研究誌としては，"舞踊(学)研究"Tánctudomanyi tanulmányokが隔年で，58年から現在まで刊行されている。内容は，歴史，理論（美学，動作学，分析），バレエ，民族舞踊，外国の舞踊に関するものなど多岐にわたっている。特に70年代以降は，Martin Györgyによる過去の研究成果の集大成ともいうべき著作が多数発行されている。そして，他のヨーロッパ諸国及び近隣の国々との相違共通点を探って，ハンガリー舞踊の本質的な特徴をきわめつつある。

さて，全国的な文化運動や，公的な団体機関の成立によって，伝統文化の保存や記録，研究は，個人の手から，団体，国家の手へとゆだねられるようになった。たとえば，47年の民俗学研究所，舞踊芸術家協会，成人芸術・教育研究所，国立民俗学博物館の開設・設立，50年の国立民族舞踊団の設立，71年の国立バレエ学校内の民族舞踊科の開設，74年の，科学アカデミーの音楽学研究所の中の常設の民族舞踊研究部門の開設など，しだいに研究の場が広がってきている。

大きな文化運動も2つみられた。1つは，1931年から44年へかけて起こったGyöngyösbokreta運動（真珠の花束）である。これは劇作家Paulini Béla（1881〜1945）が創始したとされ，毎年8月20日頃の1週間から10日間にわたり，各地の村々のグループが，舞踊や民謡，風習などをブダペストの舞台で披露しあったものである。初めは，わずか10ほどの参加数であったが，最終的には，約100（1944）にものぼった。この運動のモットーは，"To preserve folk traditions"であり，その目的通り，各地に継承されている舞踊や歌，風習などの発見と記録（フィルム，テープ，写真ラバノーテーションなど），及び保護育成に大きな役割を果たしたと考えられる。

もう1つは，1970年代に入って，振付家Timar Sándor, Kricskovics Antalらの提唱によりはじめられたTáncház運動（舞踊の家）である。元来，田舎の村には，日曜の午後や平日の労働の後，若者たちが寄り集まって歌や踊りをするコミュニケーションの場としてTáncházと呼ばれるものがあった。これと同様のものを町にも作って，自国の豊

かな，だが消えつつある文化を継承していこうとしたものである。

ブダペスト市内では，週に4回ほど，公民館や青年クラブなどで行われ，前半1時間が子供のクラス，後半3時間が成人クラスで，踊りの他にも民謡を教えたり，民俗学者の講演をしたりしている。また田舎からブダペストのTáncházをたずねてきた人たちに話をきいたり，一緒に踊ることもある。基礎的なところは，指導してくれるので，全くの初心者でも気軽に参加でき，この頃は家族連れで楽しみにくる人たちもみられる。必ず民族楽器による生の伴奏もつき楽しい雰囲気である。

この運動の意義は，若者たちに自国の伝統ある舞踊に触れさせ，その価値にめざめさせ，さらにそれを担う側にした点である。それはアマチュアの踊りのグループ数の増加にあらわれている。44年には，国内に100ほどのグループが数えられたが，1978年現在，伝統的な村のグループ（21%），若者たち（22%），子供（57%）で，総数1296のグループがある。

以前は，親から子へという形で伝えられていた伝統文化であるが，近代化，都市化が進むにつれその姿は変容してきている。たとえば，村で踊れるのは高齢の人のみに限られてしまい，踊る場もないため，学者や踊り手が彼らから踊りを習い，村の子供たちは，その専門家たちから自分の村の踊りを習うといったことがみられるのである。

Táncház運動もほぼ10年が過ぎ，かなり定着し効果をあげたと評価できるが，これを単に流行に終わらせることなく，真の意味で伝統文化を継承していく方法を考えていくことが今後必要であろう。

註(1) Martin György：A magyar néptáncai, Corvina, p. 9－10, 1974.

(2) 矢田俊隆：世界現代史26，ハンガリー，チェコスロヴァキア現代史，山川出版社，p. 74. 1978，梅田良忠編：世界各国史13，東欧史，p. 299, p. 347.

(3) 第1次，第2次大戦中の様々な抑圧や支配から，1945年ブダペストが解放され，その後ハンガリーが，人民民主主義の道へ歩んだとされている。

（ハンガリー人の人名は姓，名となる。ここではハンガリー式にならった。）

表1　著作・雑誌等・公的機関等の設立

（○印は雑誌等　＊印は公的機関等の設立）

○1905　Ethnographia（1890創刊）
1918　Nirscby, Emilia：A művészi tánc
1924　Réthei Prikkel Marián：A magyarság táncai
＊1931－44　Gyöngyösbokréta 運動起こる（'34 General Hungarian Bouquet Association設立）
1937　Haraszti Emil：A tánc története
1937　Lajta László, Gönyey Sándor：A magyarság Néprajza Ⅳ
〃　Viski Károly：Hungarian Dances（London）
1939　Elizabeth C. Rearick：Dances of the Hungarians（New York）
1945　革命
1946　Rabinovsky Mariusz：A tánc
1947　Molnár István：Magyar tánchagyomanyok
〃　Lugossy Emma, Gyönyey Sándor：Magyar népitáncok
＊〃　Institute of Ethnology, The Association of Hungarian Dance Artists
＊〃　Institute of Popular Art and popular Education, National Ethnographic Muzeum設立
1950　George Buday：Dances of Hungary,（London）
＊〃　Hungarian state folk Ensemble結成
1952　Lugossy Emma：77 Leánytánc
○1953－67　Néptánc kiskönytára（全39号）
1954　Lugossy Emma：39 Verbunktánc
〃　Szentpál Olga：A csárdás
〃　Morvay Péter, Pesovár Ernő：Somogyi tancok
1955　Martin György：Bag táncai és táncélete
1956　Lugossy Emma：A magyar népzene tára Ⅲ/B
〃　Vályi Rozsi ed.: Amagyar balett történéböl
○1956－75　Táncművészeti értesitő：Vályi Rozsi ed.
1958　Belényesy Márta：Kultúra és tánc a bukovinai székelyeknél
〃　Kaposi Edit, Máacz László：Magyar népi táncok és táncos népszokások
○1958－Tánctudományi Tanulmányok
1960　Pesovár Ferenc：Alapi táncok
1964　Martin György：A sarközi—Duna menti táncok motivumkincse
1965　Martin György：Magyar tánctipusok kelet－europai kapcsolatai
＊〃　Folk Music Research Group of the Hungarian Academy of Science（MTA）結成
1970　Martin György：Magyar tánctipusok és táncdialectusok Ⅰ～Ⅲ
＊1971　Hungarian national Ballet Schoolに néptánc科設立
＊1972　Táncház運動起こる
＊1974　MTAのInstitute of Musicologyに néptánc部門開設
1974　Martin György：A magyar néptáncai
○1976－　Táncmüveszet Maácz László ed.
1979　Martin György：A magyar körtánc és európai rokonsága

（特に明記していないものはすべてBudapestが発行地）